

手回しオルガン 親しんで

弘大学生団体が  
ワークショップ

弘前

弘前大学の学生団体「弘



ワークショップで手回しオルガンの演奏に挑戦する参加者ら

前グローカー・アクション」は8月31日、弘前市紙漕町の「集会所 Indriya」で手回しオルガンのワークショップを開いた。ヨーロッパの街角ではおなじみの楽器だという手回しオルガンを、市民に広く知ってもらいたいと企画。参加者らは、楽器内部の仕組みの解説を聞きながら、実際にハンドルを回し音色を奏でるなどして、手回しオルガンに親しんだ。

同団体は、

フランスを切り口に弘前をグローバルな視点で見つめ、弘前の魅力を再発見しようと活動している。毎年同市で開いているマルシェで手回しオルガンを演奏していたところ、市民からの反響が多くあったため、オルガンに特化したイベントを開こうと今回初めて開催した。

講師には、宮城県の旧松島オルゴール博物館で楽器の修理・修復を担当した経験を持つシマン・ユージさん（仙台市在住）を招いた。シマンさんは、お手製のオルガンで心和む音色を披露し、内部の構造や手回しオルガンの魅力について語った。

ワークショップに参加した埼玉県で外国語指導助手（ALT）をしているフランス出身のガルモン・クリストフ・美智仁さん（33）は「フランスに関して弘前の学生がどんなプロジェクトをしているのか気になって来た。フランスでは祭りなどで手回しオルガンを見かけるけれど、これを手作りしたとは驚いた」と話した。

今年のマルシェは、今月28日に同市土手町の蓬萊広場で開かれる。

（伊藤ほなみ）

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです